

交叉点24

明高24回生通信

20th/Feb. / 2011

「苦あり楽あり、わが人生」

角 正一郎

明高二十四回生が卒業して三十九年が過ぎた。地球規模では微々たる年月であろうが、我々にとってはそうではない。この間、様々なドラマが繰り広げられた。山あり谷ありで、今まで体験した事も予想もしない出来事が次から次へと起った。一步間違えれば死に至る事もあれば、判断ミスで今も悔やみきれない事もある。

さて、私は後期高齢者と云われる年を来年迎えるが、定年退職までの三十八年間はひたすら数学教育に力を注いだ。その後の十四年間は健康維持のため、数学を趣味として問題を作成したり、実務時間をできる限り少なくして時間講師を勤めてきた。他に地域のボランティア活動として町の自治会長を引き受けた。老後の生活環境はこれで十分と云えようが、実は私には縁の切れない大切な趣味がある。

それは囲碁である。退職後は囲碁が生活の中心に据えられて、他のものがその周辺を廻っている感じがする。兵庫県学校厚生会の東播活動センターと高砂中央公民館へ週に二回、午後から出かけて行き稽古に励んでいる。以前から明高時代に、囲碁の基本を今は亡き中村隆次先生から教わっていた。隅の曲り四目の生死がどうなるとか、細かいルールや反則行為、行儀作法に至るまで指導を受けた。打った碁石の意味を知れ。碁石を持たずに考えろ。二度打ちは反則だ、絶対にするな。これを忠実に守った結果、今の自分があるように思う。

19×19の有限な碁盤の目に打ち下ろす碁石には、布石・中盤・終盤があり、特に布石は将来どんな戦いになるかを予想して作戦を立てなければならぬ最も重要なものである。学校へ通う教育期間のようなもので、「海のものとも山のものともわからんわ」と云うようでは既に負けである。中盤は、表現が悪いが、生き馬の目をくり抜くような死闘を繰り広げて、一手を省くと死を招く。常に積極的な戦い



が要求され、消極的な考えは負けである。社会に出て、「賃金は安いし、仕事はきついし、その上、能力給やしな。労働意欲はわかんわ」と嘆くようでは先の見込みはない。これを

打開する気力と技を持たなければならない。

いよいよ終盤である。ダメ石を詰めて頓死する。よくある事である。半目多くても勝ちなのに、少しでも多くの地を稼ごうとして欲を出す。相手はそれを待っているのだ。仕掛けられた罠に填って負けとなる。年金が貰える人生のまとめの時期に相当する。

ある程度の財力を蓄え、子供達も無事に成人し、社会人として立派にやっているにもかかわらず、僅かな儲け話に投資をして利息どころか元金までも失う話はよくある。何のための貯蓄なのか、生活基盤を守るための金ではなかったのか。これでは子供達に顔向けができない。誤った個人情報どこから仕入れるのか知らないが、未だに投資の勧誘の電話をかけてくる得体の知れない投資会社がある。いつまでもあると思うな親と金。ごみ箱に棄てるような金はあるはずがない。一局の囲碁そのものが人生の縮図を表しているような気がしてならない。

高齢になるに従って、専門書を読むのが面倒になってきた。「ゲーム論と統計的決定」とか「ベイズの条件付き確率論」などである。前者は品質管理や少ない資本で最大の効果を上げる戦略に応用されたりする。後者は僅かな情報であってもそれを手に入れたとき、素早く判断材料として母集団を修正して、その情報がないときよりも、よりの確な意志決定をすることができるようにする。購入物品の選択などに利用されるものである。

本を読むことの面倒さが、やがて、視野を狭め、判断力は鈍くなる。このような事態になる前に、現

役時代の仕事で培った能力と経験を活用して、経済の主役から今後は地域を支える者として、地域社会に貢献してほしい。延いては若者達の将来の生き方のモデルになっていただきたい。

人はいくら年齢を重ねても夢はある。体力は衰えても考えることは千差万別、失うことはない。宇宙に存在する物質の八割を占めるダークマターとは一体何か。二億五千万年後の地球上で人類の化石を発見するのは何者か。考えてみると興味は尽きない。

人生の三分の二を過ごした昭和の時代を時には懐かしく思うことがある。苦しかった事は決して忘れることはない。BS日本のこころの歌で、フォレストが数々の名曲を歌ってくれている。情緒豊かに澄みきった声で歌う昭和の懐かしい名曲が耳に入ってくると、若い頃のあの時のことが思い浮かんで、なぜか涙が止まらない。

あとがき

原稿の依頼があったが、遅れてしまったことをお許し願いたい。交叉点で私の思いを述べる機会を与えてくれた河合君をはじめ、昭和の思い出を沢山作ってくれた二十四回生の皆さんに感謝したい。

「幕末の京都に想いをはせて」

森岡 進（3年8組）

京都府庁に勤務して早38年になります。定年なんて先のことと思っておりましたが、もうカウントダウンになってしまいました。そういえば、目も悪くなりメガネが遠近2つないと日常生活に困るようになり、髪の色も白くなり、すっかり”老い”を感じるようになりました。

それでも、若い人たちに負けないように、毎日マラソンの練習をしています。年に2回はフルマラソンに挑戦しており、今年は、遷都1300年記念の第1回奈良マラソンにエントリーをしましたので、これを目標にトレーニングをしています。1年程前から足の膝や太股が走ると痛み出して十分な練習ができなかったのですが、最近は大いぶ回復し走れるようになりました。

今年の大河ドラマは、福山雅治の龍馬伝ということで人気があるようです。今の職場は本庁で、京都

守護職の上屋敷があった場所です。旧本館の中庭には幕末の守護職松平容保にちなんで命名された容保桜が咲いており、時々野外コンサートなどを行っています。

また、御所が近いので、昼休みは御所でマラソンの練習をしています。御所（正確には京都御苑）の蛤御門から入って御所の中を一周（約4k）して蛤御門に帰ってきますが、蛤御門は、禁門の変で薩



摩と長州が激しく争ったところで、今もその時の弾丸の弾痕が柱や扉に残っています。今年は、大河ドラマの影響もあって、その前で写真撮影をする観光客が多く見られます。御

所の北は薩摩藩邸跡で、今は同志社大学になっていますが、薩長同盟の密約が交わされた場所も近くにありす。

龍馬が幕府の見回りに襲われた時、お龍が風呂から飛び出して知らせたという伏見の寺田屋は今も残っており、当時の面影を残しています。

京都にいと、幕末の激動の中を命がけで生き抜いた人々の想いを感じ、私自身も奮起しなければと思います。

家族は妻と子供は3人（男2人女1人）ですが、上の男2人は家を出ています。長男は大学4年生になり、体育会系のサッカー部で頑張っています。就活の時は睡眠時間3時間で準備をしたようで、なんとか内定しほってしています。友達は苦戦しているようで、本当に厳しい時代だと思ひます。

次男は、今春高校を卒業し、ヴィッセル神戸に入団をしました。背番号は20番で、ポジションはMFをしています。神戸市西区のいぶきの森で練習をしていますが、神戸の実家（西神中央駅から約2k）から近いので、時々練習試合を見に行っています。トップの試合にはまだまだですが、サッカーに興味のある方は応援よろしくお願ひします。

長女は、今春高校の入学し、ハンドボール部に入って遅くまで練習をしています。京都は洛北高校が

全国優勝する程の強豪で、京都では二番手、三番手ぐらいらしく、結構厳しい練習をしています。

子供たちはそれぞれの道を歩み始め、これからは、私自身の定年後の暮らしをどうしようかというのが、最近の漠然とした不安です。実家の兄のように定年後も農業をしながらゴルフもするといった生活設計ができればいいのですが、第2の人生をどう楽しく生きるかを模索しております。

「千葉県からの近況報告」

魚崎 裕伸（3年9組）

皆様、ご無沙汰しています。昭和52年に就職で関東に出てきて以来すでに35年目となりました。23歳の時からですから、関東での暮らしのほうが長くなってしまいました。

この35年間のうち、前半24年間はエレベーターメンテナンス会社のサラリーマンとして35歳まで現場でメンテナンス・修理工事・定期検査等のエンジニアとして働きました。サラリーマンを卒業する46歳までは業務部で売り上げ・利益・人員管理

の仕事をしていました。

この会社でのサラリーマン生活は、安定・安心を絵にかいたような生活でした。エレベーターメンテナンス業界はストック産業で景気の影響はほとんど受



けない業界でした。定年までこの会社で働き続けると家族も同僚も本人も考えていたはずでしたが、50歳までに独立して自分で何かやってみたいという無謀な考えが大きくなり46歳で退職しました。平成13年2月末でした。夢を追いかける早期退職でした。

平成13年6月1日会社を設立しパソコン教室を柏市の北柏にオープンしました。50歳までに独立し何かやりたいという夢は実現しましたが現実はその甘くはありません。2月末に会社を辞め独立した時は頭では分かっていたことが翌月から現実の生活の中で始まります。最初の1年間でいちばん驚

いたのは税金・保険料の高さでした。給料の中から源泉徴収・天引きで抜かれていたものが目の前に請求書でやってきます。独立前には頭では分かっていたても実際には分かっています。

最初の1年間は毎月赤字でした。2年目以降は生徒数も増えだんだんと安定し始め現在独立から11年目を迎えようとしています。皆さんはパソコン教室に通われたことがありますか？パソコン教室にどんなイメージを持っていますか？パソコン教室の生徒さんの平均年齢は？パソコン教室は不思議の世界です。まずは、なぜパソコン教室を始めたのかに疑問を持たれる方が多いと思います。

ちょうどわれわれの年代くらいでパソコンがわかるひと・わからないひとがくっきり分かれる年代になると思います。我々より上の世代でパソコンができる人はあまりいません。わたし自身のコンピューターとのかかわりは、21歳のころ大学の授業でFORTRAN・COBOLをやりましたが全くわかりませんでした。あの当時に書物だけで分かるというのは無理でした。

会社に入り23歳のころ、制御用マイコン大体わかりました。それが仕事でした。現在のエレベーターは制御系・駆動系もすべてコンピューターで動作していますがその当時はエレベーターの呼び関係（乗り場・かご内の押しボタンだけがコンピューター制御でした）

25歳のころBASICに触れてみました。まだこれで仕事をするのは無理な代物でした。30歳のころMS-DOSパソコンが会社で導入されました。やっとパソコンで実務が出来そうな予感のするパソコンでした。まだまだ会社の中でも台数が少なくインプット・清書の用途で使われていました。40歳のころWindows3.1パソコンは価格も安くなり、やっとワード・エクセルが使えるようになりました。会社の仕事でも本格的に使われるようになった時期です。

この後、42歳のころWindows95が発売され爆発的に社会の中にパソコンが入り込んできました。現在ではパソコンが出来ないと生活に困ってしまうような状況となっています。

自分の年齢を軸にパソコンの進化を考えてみましたが自分たちよりも上の世代の方々はパソコンに触れる機会がなく出来ないのは当たり前だと思います。この世代は団塊の世代と呼ばれる世代です。パソコン教室を始めた10年前この団塊の世代年代が社会の中心的位置にあり現在でも人数・資産保有で日本の中心にいとわられています。

パソコンは私が大学の授業で学んだ時に比べれば簡単になっています。Windowsは95、98、Me、XP、Vista、7と進化しだんだんと優しく操作出来る様にはなっていますが、まだまだ初めての人にとっては難しく解らない代物のようです。

パソコン教室を始めようと思ったのは以上のような背景の中で、自分が企業の中で身に着けた技術で社会に貢献するにはと考えた結果でした。教室の平均年齢は65歳位でだいたい予想通りです。最高齢の生徒さんは88歳です。生徒数は約200名です。10年前始めた時は夫婦二人で講師をやり、パソコン台数6台でしたが、現在は4教室・34台講師数8人の規模になっています。

業務内容はパソコン教室での授業を中心に、パソコン販売・設定・修理です。生徒さんは習っている教室から習っている環境そのままのパソコンを購入したいと考えているようです。パソコン販売、設定、修理も生徒さん限定でやっています。授業の合間の時間で対応しているとなかなか忙しいです。夫婦二人で授業・講師の研修・設定・修理・事務処理・生徒募集等、法人といえども中身は自営業ですから大変です。特に、生徒募集は手間だけでなく金額的にも大変です。1回の募集で約14万枚のチラシを新聞に折り込みます。生徒募集は、年3回実施しますので52万枚です、ちょっと気が遠くなるような枚数です。このチラシ代および折り込み代で夫婦二人つつまじやかに暮らせば食べられる程の金額になります。しかし、新聞折り込みの効果は絶大です。入会希望者の電話が次々入ってきます。この募集をしなければいつかは生徒さんがいなくなるのではないかと心配で10年間欠かさず新聞折り込み広告を続けています。これが事業の安定の方策と考えています。



パソコン教室は不思議の世界です。もう10年間も通われている人もいます。5~6年間通ってきている人はざらです。もう何もお教えする事はない筈ですが、毎週授業

に出席されています。この方々曰く「何回聞いてもパソコンの授業は新鮮」です。もう習い事の世界です。教室をオープンした当初はパソコン教室だからパソコンを教えていましたが、現在ではパソコン教室だけど生徒さんのコミュニケーションの場の提供を目指しています。パソコンに限らず、携帯電話・メールの使い方、ipod・デジタルビデオ撮影編集（これらはすでに授業でやっています）さらにはipad、iphon、スマートフォンと情報機器が次々と開発され講座のネタは尽きません。パソコンを作る講座もよし、英会話、ビーズ、お花、着付け、数学、物理等なんでも考えられます。中には、麻雀を教えてほしいとの相談もあります。まさにおとなの学校です。

パソコン教室から地域のコミュニティーの場へと変革を模索中です。まだまだ道半ばです。定年のない仕事です。まだまだやるべきことは沢山あります。夫婦ともども、あと20年現役で頑張ろうと考えています。

以上

「滋賀の草津もよいとこ 一度はおいで」

杉江（森本）浩江（3年4組）

9月でしたでしょうか？「交叉点」が届き、一緒に松田さんからの原稿依頼の紙が…。「ええー！！」って感じで、その時は全くその気になれず、しばらくほったらかしでしたが、最近気になり始めました。

思い起こせば、30有余年前、父の定年退職を機に住み慣れた明石の地を離れることになりました。官舎からマイホームでしたが、なんで滋賀県なの？神戸三宮に勤めていた私にとっては、なんでこんな田舎にすっこまなきゃなんないの？って感じでしたが、「住めば都」とはよく言ったもので、今やなんて住み心地のいい、所かとつくづく思います。

初めて滋賀県の地（栗東）を訪れた冬、京都からの普通列車に乗り「山科」から「大津」とひと山ひと山トンネルを抜けるごとに寒さが一段と身にしみて、雪国に向かう気がしたのですが、当時は何十センチもの積雪があったのに、ここ最近は何年にも一度せいぜい10センチ程度の積雪がある位です（ただし、草津、大津、栗東などの湖の南西部に限った地域の話ですが）。もともと明石は雪などめったに降らない温暖な地域ですが、私の住んでいる草津近辺も一年を通して気温などは明石とさほど変わらないように思います。同じ近畿圏内ですしネ。

ところで最近、近畿の人々に滋賀県が人気だとか。琵琶湖と田園地帯のイメージしかないのですが、土地が安いからでしょうか。でも何より、台風などの災害の少ない所です。なかでも草津はこのところ街っぽくなってきました。もう十数年前になります、南草津駅ができて、立命館の理学、経済、経営学部が草津に移転してからは、駅周辺の環境が一変しました。学生マンションや大型スーパー、飲食店などが軒を連ねるようになりました。まだまだ田園地帯も残っていますが、今や私の最寄り駅「南草津」は若者に「ミナクサ」の愛称で親しまれています。

さてさて、突然話は変わりますが、それまでずっと専業主婦だった私ですが、主人の両親が亡くなったのを機に、職探しに奔走することとなりました。ぎりぎり45歳でも応募できたのが、滋賀県が運営する「びわこ競艇場」の舟券販売業務でした。皆さんは競艇場（今はボートレース場と言います）と聞いて、どんなイメージですか？職場として行くまで何も知らなかったの、なんか暗いダーティーな印象でしたが、まあ公営のギャンブル場ですので、競馬場なんかと同じなんです、お客さんが競馬ほど若くないんですよ。はっきり言ってお年寄りが多いです。もうちょっと客層が若ければなあって思います。十数頭走る競馬と違って、ボートは6艇だけなので勝率も高いんですけどネ。結構イケメンの選手とかもいて、



若い女性ファンもたまには来場するんですけど、斜陽傾向です。ボートレース界の石川遼みたいなのが欲しいです。近くにある大津市営の競輪場が来年の3月で廃止となりますが、びわこボートも厳しい経営状況にあります。最初勤めた当時は、ひとつの窓口で、あっという間に10万円くらいの売り上げがあり、なんてボロイ商売なんだろうって思ったものですが、それだけ世の中の社会経済が変わってしまったということですネ。今やお年寄りが年金で舟券を買って、遊んでくださるって感じです。でも、一日中美しい琵琶湖を眺めて仕事ができるのは最高です。お客さんの向こうには、対岸の山々と共にヨットやミシガン船を配して、いつも大きな湖が日々様々な色調で横たわるのです。皆さんにもこの眺望をぜひとも体感していただきたいものです。滋賀にお越しの際は、大津の「びわこボートレース場」へもお運びください。

最後に滋賀県に住んでつくづくいい所だな、便利だなと思うのが、京都に近いってことです。草津からだとも30分足らずで行けます。四季折々の京都の風情を手軽に体感できます。神社仏閣、美術館等気軽に出かけられるのがうれしいです。もちろん滋賀県内にも神社仏閣はたくさんあります。また来年は大河ドラマの舞台にもなりますから、訪ねてみて下さい。

「45年あまりを振り返って2011. 1. 3」

馬場 滋夫

あと30カ月で還暦定年

大学を卒業し、大阪に本社があった電子楽器メーカーに就職した僕はずっと管理系一筋に33年勤務し、あと30カ月余りで定年を迎えようとしています。28年前に浜松に転勤し、大地震の年に浜松にあるグループ企業の業務用プリンターメーカーに転籍。ここでは、総務・株式担当として株式上場業務、翌年からは株主総会の展示企画、想定質問回答準備、総会当日は事務局責任者としてプレッシャーのかかる立場を歩んで来ました。また、独特の「屋台生産方式」を見学に来られる年間数百組の国内外企業の見学案内で、随分多くの企業リーダーにお目にかかることができました。浜松転勤を言い渡されて慌てて浜松

について来て欲しいとの求婚を受けてくれたキュー
トで誠実な連れ合いに恵まれたこともあり、のどか
な地方都市ですが音楽好きの仲間とのあつという間
の33年間でした。そこで、自分というものを意識し
はじめてからの45年余りを振り返って、僕の近況
報告とさせていただきます。

あの運動音痴がスポーツやて！

明高同窓の皆さんには僕が運動をよくする人とい
うイメージは無いと思います。でも僕が10歳の時、
体が弱いと心配した父が前年に日本体育協会が立ち
上げたスポーツ少年団なる物を高砂で作ると言い出
し、そこから運動音痴の僕の運動人生が始まりまし
た。奥手の僕は高校2年あたりからやっと成長期に入
り、子供にサッカーを教える立場にもなってきたの
です。1972年8月26日から9月11日までミュンヘンオ
リンピックがあり、ユースキャンプというオリンピ
ック委員会のプログラムがありました。受験浪人中
でしたがミュンヘン郊外のキャンプ村でオリンピ
ック参加各国の同世代の人たちとスポーツ交流する
120人のメンバーに選ばれ参加することになりました。
2カ月近く五輪見学、市内見学、自主企画旅行、
パーティなど全て参加者相互のセルフマネジメント
の夢のような生活を体験しました。選手村の体操メ
ダリストの部屋に押し掛けた翌日にはあのテロ事件
が発生し、軍隊の出勤を目の当たりにしました。2年
後に再び日独スポーツ交流メンバーとして1カ月北
ドイツ各地を訪問する機会を得て各地をホームステ
イしながら、2年後の空手女子世界チャンプなど今
も世界で活躍するアスリート達とドイツの社会体育
を学ばせていただきました。サッカーの交歓試合で
は蹴られて前歯を二本折り、治療を受けている最中
に相手メンバーが鼻骨を折るという、交歓どころか
あわや乱闘というハプニングもありました。

もう一つの運動？

一浪の末入った大学は紛争の反省期にあり、穏や
かな学生生活が始まったのですが、秋に大学理事会
から突然50%の学費値上げが発表されました。波風
のなかった学内で反対行動はなかなか力にならな
かったのですが、やがて一気に発火点に達し、数千人
が参加し、雲隠れした理事会に対し新聞各紙に「理

事会搜索願」広告を大学名で出させるなどユニーク
な運動を展開しました。僕はいつの間にか法学部の
メンバーとして学舎の壁に名指し落書きされるなど
「過大評価」されるようになっていました。6名の逮
捕者を出して押し切られたこの件は、大阪地裁に場
所を移し、判決で「一方的値上げ発表から行方をく
らました理事会の不誠実な態度に起因する」と画期
的判断がなされ、明らかに学生側勝訴となりました。
これらの学生生活の中で知り合った京都の各大学の
学外の友人は映画、演劇、音楽、舞踏、沖縄、北海
道など今に至る多くのキーワードを僕に植え付けて
くれました。

ボランティア、社会活動

「もう一つの運動」はある種の正義感からスター
トしたのですが、その気概は今も保っています。自
宅から45kmの位置に浜岡原発があります。杜撰な計
画で建設されて以来、既成事実として5基の原発が
並んでしまいました。チェルノヴィリ原発事故以来、
反対活動に参加したのですが、ある日曜夕方のTVニ
ュースに大きく取り上げられ、会社のトップの方々
の知るところとなりました。幸い個人の信条の領域
として理解され？別の機会で中部電力役員との会食
の席でも社長に了解を得て反原発の個人意見を述べ
させていただきました。また反戦人権の講演会とし
て、今は多忙な姜尚中氏や国連で先住民族として
堂々と演説したアイヌの若きリーダー酒井美直さん
の講演会などをメンバーとして開催してきました。
他にも、紛争地・被災地に医師を派遣する「国境な
き医師団」、パレスチナの子供たちに聾学校建設や
就労支援をする「パレスチナ子供のキャンペーン」
のサポートをしたり、大規模野外コンサートでは当
たり前になってきたリサイクル・リユースの徹底で
ゴミを一切残さない「A SEED JAPAN」の活動に参加
したりと多忙な日々です。どれかに興味をお持ちの
方はいませんか？僕は企業の管理部門の管理職と社
会運動を両立させるスタイルを何よりも大切に実践
してきました。

趣味って一体？

8年前の健康診断で不整脈と診断され、やがて心房
細動、心房粗動が慢性発症し、仕事を辞め運動は散

歩程度にするよう指導を受けるまでになったので、思い切って積極治療を決断しました。4年前に浜松で、2009年9月には茨城県土浦の病院でカテーテルアブレーション治療を受け、経過観察も良好で完治しました。医学の進歩に感謝、看護師の皆様にも感謝です。おっと、これが趣味というわけではありません。こんな中でも続けてきたのが登山、スキー、自転車です。日本の高い山を40余り登りました。雪のシーズンにはスキーを担いで登り、山頂から滑走する爽快感に嵌まってしまいました。トレーニングとして浜名湖一周や柵池、乗鞍などを登るレースなどロードレーサーの自転車こぎは生活の一部になっています。このあたりは野村君とまではいきませんが近いものがあるかもしれません。職場の若い子たちに付き合ってもらうので、彼らからはハードスポーツオヤジとみなされています。勿論、音楽や文学など知的欲求は強いのですが悲しいかな、理解度・センスの面で劣るので残念ながら趣味とは言い難いのです。

長々と書き連ねましたが、半世紀を思い返すいい機会を与えていただきましたこと、編集の労を取られている松田君に感謝いたします。

E-Mail: bab@mbr.nifty.com

「『風』のように」

古坂 安志

明石高校を卒業しもうすぐ40年。松田さんからの誘いがあり、近況を報告させていただきます。交差点24に寄せられる皆様のグローバルな話やら高度な専門的な話やらと比べるとやや軽い話ですがおつきあいください。

現在仕事は阪急阪神百貨店の社員教育を担当しております。やや斜陽ぎみの百貨店の行く末を案じながら、目の前の定年というラインも気にしつつ日々暮らしておる次第です。

仕事以外の趣味の話をさせてください。高校で2年生時に椎間板ヘルニアで手術というアクシデントがありながらも、3年間ハンドボールの虜になった私でしたが、大学に進むと一転文科系クラブ、男声ばかりの合唱団であるグリークラブに明け暮れました。入部したのは関西学院グリークラブ。日本最古の合

唱団として伝統があり、文科系といっても練習量は多く縦社会の体育会系に近いクラブ活動でした。4年間には各種演奏会や演奏旅行など楽しく忙しく過



ごし、特に2回生の春には世界大学合唱祭に参加するためヨーロッパ遠征。ポルトガルを起点に欧州各国を約1ヶ月間演奏して回りました。

社会人になっても会社の合唱団など、コーラス生活は細々と続けていましたが、今から12年前に男声合唱団『風』に出会い、今も続けています。この団は加古川を中心に約50人のメンバーで構成されています。関学グリー出身が半分近くいるのですが、他の大学での合唱経験者やまったく初めて始める人もおり、自由な雰囲気です。年齢も30歳代から70歳代まで、また、職業も千差万別。合宿や演奏会には東京・名古屋からも駆けつける人もいて、メンバーはどこからか現れ、いつの間にか去っていく、さながら『風』のような団体です。

演奏の機会は、メインとして毎年6月の“父の日”に、加古川で定期演奏会、今年は11回目を数えました。その他にもクリスマス演奏会や地域の合唱祭などの活動を展開しています。今年の夏には、北海道・小樽の市民合唱団とのジョイントコンサートが実現し、『風』の約40人が演奏会当日にやはり小樽に風のように集まり、小樽市民の前で高らかに歌い、運河横のレンガのレストランの打ち上げでまた歌い、あくる日には各人散っていくという楽しい演奏旅行となりました。翌日には地域の新聞に写真入でその演奏会の様子が報道されました。来年は関東のつくばでのジョイントコンサートもできそうです。

『風』は、男声合唱界では有名な作曲家である多田武彦氏の曲を歌いたいとして集まってきました。毎年の定期演奏会では必ず彼の曲を取り上げています。それ以外にも宗教曲やニグロ・スピリチュアルやシーシャンティーなどいろいろなジャンルの曲も演奏しますが、団員の目的は“多田武彦(タダタケ)”をハーモニーすることなのです。彼の作る曲の魅力は①日本情緒たっぷりの詩、例えば北原白秋や中原

中也などの日本人の心に染み入る歌詞に曲をつけている。②男声合唱特有の心地よい、しかも単純明快なハーモニー（響き）を求めている。③メロディーも日本人にとってどこか懐かしい旋律を歌っている、などです。今年の演奏会では、縁あってその多田武彦氏本人に我々『風』のために新曲を作っていただきました。そして栄誉ある“本邦初演”の演奏を実現できました。ステージ上では時に感動で涙が出るようになる時もあります（自己満足ですが）。そんな感動を求めて今後も何年かはこの活動を続けたいと思っています。

最後に、こんな道楽を許してくれるのは家族の理解があるからです。3人の娘たちはもはや結婚や仕事で神戸の我が家を遠く離れ妻との二人暮らしですが、妻は毎年の定期演奏会に聴きに来てくれています。娘たちも演奏会当日にはメールで応援メッセージを送ってくれます。この家族のエールに感謝をしつつ、今年も『風』のハーモニーを楽しみたいと思います。皆様もよろしければ、演奏を聞いてください。また参加希望の方も歓迎です。

以上で私の近況（特に趣味）の報告でした。

《憧れてシリーズ》第二弾

「作家」に憧れて

山本（平松）昌子（3年5組）

4、5年前から梅田の文章教室に通うようになりました。それぞれが提出した小説や随筆に対し、先生と仲間たちが論評し感想を述べあうという和やかな集まりです。そこで私が一昨年に仕上げた、海辺の小さな城下町『あけぼの市』を舞台にした小説を紹介したいと思います。



題名は《さくら貝の耀く町》。

主人公は、林崎アザミ35歳、『あけぼの市観光開発整備公社』企画係の職員、企画係長は狩口蘇芳、ともに

独身の二人が所属する公社内のあけぼの高校出身者の懇親会『ほのぼの会』のメンバーは柿ノ本胡桃、

荷山青磁、稲爪リカコ、亡くなった大倉亮。本庁からの出向課長は鷹匠さより、その恋人で倫理教師の（風貌はみなさんの想像通り）、常務は堀田伝記、林崎の元カレ和阪一郎、広報誌カメラマン茶園場大介、イケメン作曲家は有瀬、市民オーケストラ『さくらフィル』指揮者は衣笠先生、テーマソングを歌う8歳の少年は岩岡くん、パリ観光協会のカトリーヌ・ドラード（鯛）とミミ・ピューブル（蛸）、あけぼの検定を監修する郷土史家は黒橋鋭角、さらに、昼休みに集う喫茶店は『メリジャン』たまり場は居酒屋『恵比寿』和菓子喫茶は『カセン』、お濠前の観光ホテルは『岡辺館』あけぼの駅前ビル6階にあるジャズクラブのマネージャーは、などなど。

ここまでで、充分、ウケました？

（梅田ではしーん、としていた……）

林崎と狩口は、あけぼの市の観光を盛り上げるため知恵をしぼります。年度ごとにテーマを決めて行事を催すことにし、スポーツの町、自転車の町などと企画します。そして今年度は、『和菓子の町あけぼの』と銘打って、あけぼの公園で創作和菓子コンクールや和菓子作り体験教室を開催します。そのうち和菓子の町のテーマソングを作ることを思いつきます。林崎の作った歌詞は以下の通りです。

うぐいす餅にしぐれ 桜舞い散る
笹ぎぬ くず玉 かん 花火きらめくの
茶巾しぼりに 栗かのこ 目に焼く
おぼろ 六方 花びら餅ぼたん雪降る 公会堂
ああ、わが町 あけぼの磯にう さくら貝……

ひきつづいて続編の『輪読会』。

予備校講師の薬研堀笙子を中心に、年齢不詳の朝霧夕子（狩口の元カノ）、定年後の相生播陽、中高年主婦の花園みゆき、謎のフリーター西願寺ミモザ、そして再び登場イケメン作曲家の有瀬生成。週一回、あけぼの商店街の路地を曲がった元料理屋の二階のカルチャー・スクールで源氏物語を読む会を開いているという設定です。朝霧を取り巻く恋の駆け引きあり、複雑な人間模様あり。

私はもともと文章を書くのは好きでしたが、それは作文や日記を書く程度で、自分に小説が書けるとはとても思っていませんでした。というのは、小学校6年生のころ、里中満智子や青池保子が確か少女フレンドの漫画コンクールで優勝していたのに刺激され、漫画の絵を描くのが大好きだった私も漫画家になろうと決意しました。そして東仲ノ町の松屋



でケント紙とカラスぐちを購入して机に広げ、さあ、書きましょう、と思った瞬間、何を書いたらいいか分からなくなったのです。すなわち、その時、漫画にはストーリーが必要だと悟ったのです。即座に挫折しました。それ以後、私にはストーリーを組み立てる能力はない、ましてや小説などとても書けないと思ひ込んでいました。

50歳を過ぎたころ、なにか老後の生き甲斐になる趣味を、といろいろ探していました。ジャズボーカル？ 水彩画？ フラダンス？ ある日、新聞広告に載った藤本義一の写真がどんと目に飛び込んできました。『書きたい人へ 小説、シナリオ、エッセイ、児童文学、放送構成作家、プロ養成コース』まさに、これだ！ と感じました。でも自分がどれだけ書けるものか、書けないのか見当もつかなかったもので、いきなりプロ養成は怯みますので、とりあえず文章力を鍛えてくれるという梅田の文章教室に入会したのです。最初は身辺雑記やエッセイのようなものでしたが、次第に自分自身から離れたところで物語をでっち上げる小説というものに魅力を感じるようになりました。登場人物のキャラクターと舞台、シチュエーションを設定すると、人物たちが勝手に生き生きと動き出すのです。40年の遠回りをして、ついにストーリーの世界にたどり着いたので

炬燵にあたったままノート・パソコンに向かっていてだけで時間を忘れる、私にうってつけの、こんなに怠惰で愉快的な趣味があるのでしょうか？

また、同好の士の方がいらしたら、お話したいものです。

編集後記

松田千尋

寒さの続く中にも、日毎に日没が遅くなる今日この頃になってまいりました。24回生の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、昨年秋に1年遅れの交叉点をお送りさせていただいた際に、原稿を依頼するお手紙を同封させていただきました。その直後から20数名の方々より返信をいただきました。

残念ながら原稿依頼にまで至らなかった方々もおられましたが、6名の方より原稿を戴くことができました。角先生より戴いた原稿と合わせて7通になりましたので、今回は、1年の遅れを取り戻すべく半年たらずでの発行となりました。お忙しい中原稿をお送り戴いた皆様本当に有難うございます。お蔭で今回は一度も電話等でお願ひすることなく発行できました。

今後は発行費用を節約するために、このスタイルでお送りする予定です。そしてこの編集後記にて直ぐに次回原稿をお願ひさせていただきます。前回のようなお手紙を400通以上書くことはとてもできません。あれが最初で最後です。でもあのお願ひに時効はありません。全員にお送りしましたが、可能な限りそれぞれのお顔を思い浮かべながら書いたつもりです。これまでの57年乃至58年のそれぞれの皆様の普通の人生を綴った原稿を心よりお待ち申し上げます。

よく友人から、「そんな昔のことを克明に憶えとるなあ。」といわれますが、特別記憶力が良いわけではありません。最近では人の顔と名前が覚えきれない毎日ですから。ただ、時々アルバム（幼稚園から高校まであります）をながめる習慣が昔からあります。別に昔を懐かしむとかいったものではなく、何となく眺めております。その結果かどうかわかりませんが、4歳で左腕を骨折した日からこれまで、ほぼ毎日の記憶があります。実際には大分飛んでいるのかもしれませんが、こういった記憶が自分の心

の居場所を安定したものにしてくれているように思いますので、今後もこの習慣は続けようと思っています。

さすがに高校時代ともなると、関心が内なるものに向かいますので、同じクラスにならなかった方とは50歳になって実質初対面という面がありますが、中学校ぐらいまででしたら誰がどのクラスにいたか



まで思い出します。実はアルバムを見ていけば特別難しいことではありません。

まあこんな習慣、あまりな

いかもしれません。

話がそれてしまいましたが、たくさんのお便りお待ち申し上げます。ご健康に注意して1年をお過ごしください。

事務局からのお願い

・住所不明者についてのお願い

1組：鞍田透 村瀬繁樹 八木義孝 関みわ 定成幸子 泉谷恵子 2組：安藤悦郎 竹村郁子 3組：北田雅福 高橋英樹 土島日出彦 藤永みどり 秋定和子 平野由美子 4組：奥野好隆 田村政一 仲井透 大泉尚子 5組：大村直樹 高下和則 橋本成弘 長谷川俊広 山本和彦 平山登志子 中川ゆかり 魚住篤子 6組：西馬慎三 岩坂芳子 7組：足立真知子 近藤恵子 富岡るみ 森江真岐子 盛井雅子 8組：諸岡宗司 山崎清孝 9組：魚住一裕 加藤和宏 10組：久山哲広 山崎栄造 村上正彦 (2011年3月現在 敬称略)

もし心当たりがございましたら、下記連絡先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

名簿の管理は、手作業で行っております。ミスがありましたら、ご指摘ください。

《連絡先》事務局 河合昭彦

〒674-0051 明石市大久保町大窪1000

- 1

Tel&Fax 078-934-1667

メール kawai@dokikai.net

・カンパの終了

「交叉点」の発行に必要な経費のうち最大のものは郵送費でした。皆様にカンパをお願いしてまいりましたが、(株)サラト様と自彊会事務局のご厚意により、今後は同窓会新聞に同封していただけることとなりました。それにともない、ひとまずカンパのお願いは終了させていただきます。今まで、同期会の会場や郵送、振り込み等にてカンパいただいた皆様に深くお礼もうしあげます。

・自彊会(明石高校同窓会)との連携

昨年11月末にハガキでもご案内させていただきましたが、同期生450名中200名近い方からご連絡を頂戴することができました。今後とも24回生としても費用がかからない連絡手段としてメールを積極的に活用してゆきたいと考えております。まだメールアドレスをご登録いただけない方はぜひご登録ください。

下記のメールアドレスに「お名前」のみの記入でメールを送っていただければ登録できます。ご登録いただくメールアドレスは「携帯」「パソコン」いずれでも結構です。また、その後アドレスの変更等がございましたらご連絡をいただくと助かります。

メールアドレス： m24@dokikai.net



*QRコードです。携帯でのご連絡にご利用下さい(機種によっては使えません)。

交差点会計

| 日付 | 項目 | 出金 | 残高 |
|------------|-----|---------|----------|
| 2008/12/29 | 送料 | ¥36,090 | ¥128,911 |
| 2010/9/9 | 送料 | ¥31,760 | ¥97,151 |
| 2010/9/22 | 切手 | ¥560 | ¥96,591 |
| 2011/1/28 | 送料 | ¥1,200 | ¥95,391 |
| | コピー | ¥19,000 | ¥76,391 |